

埼玉県作業療法士会 広報誌



彩り

秋号
2024年度



- 私の声 - 特別編 - 「【連載】第4回座談会」
『猪鼻伸代氏 × 宇田英幸氏 × 広報誌編集部「一緒に考えてほしい。」』
- 私の声「リハビリ体験記④」Fさん
- 教えて県士会!!「東部ブロック」
- Quality of Campus Life ～作業療法学生に聞いてみた～ 等

No.17

—作業療法に関わる全ての人たちの魅力を伝える情報誌—

私の声

—特別編—

「一緒に 考えてほしい。」

第4回「座談会」

猪鼻伸代 氏

宇田英幸 氏

広報誌編集部



◆ 言葉選びのセンス

—今回は過去3回の連載を踏まえ、猪鼻伸代さんにリアルな介護談、介護を通じて得たお考えなどについてお伺いできればと思います。また今回は「これでいいのだバンド」で繋がりのある埼玉県作業療法士会の宇田会長にもお越しいただき、座談会という形にいたしました。ぜひ、いろいろなお話を聞かせてください！さて、最初のトークテーマはどうしましょうか？

宇田 テーマに入る前に。猪鼻さんの文章、言葉選びのセンスがすごいと思って。とにかく印象に残る言葉が多いですよ。あれ、なんなんですか！？

猪鼻 いいフレーズの言葉を「ここで使おう！」とか、ストックしておくとか、そういうのは特別ありません(笑) 普段、原稿は一度、子どもに見てもらうんですが“上から目線”の文章だとダメ出しされます。「共感する人もいるかもしれないけど、そうじゃない人もいるよね。」と何度か言われました。依頼があるとどういう方たちが聴いてくださるのか、必ず伺っています。頂いたお時間の中でなにか一つでも心に残ってくださったらと思っているので。

宇田 印象に残るし、何より引き込まれる。こういう努力は我々(セラピスト)にとってもすごく大事だと思う。専門知識も必要かもしれないけど、噛み砕いて、ちゃんと伝わるようにって。良い話ばかりじゃなくて、面白みというか、言葉のセンスをね。それを本当に感じます。

◆ 周りを動かす行動力

宇田 『これでいいのだバンド』のバンド名も猪鼻さんの提案で。赤塚不二夫さん告別式でのタモリさんの弔辞の中にあった「これでいいのだ」って言葉をね。

猪鼻 弔辞の話は何年も前の話だったと思うんですけど、なんかずっと残っていたんですよ。

その話をふと思い出して、「そういえばね…」って主人に話したんです。そうしたらすごく共感してくれて。2人の合言葉は「これでいいのだ」、これでいいよねってなったんです。それをバンド名でも使うことになって。

宇田 猪鼻さんはそういうフレーズとか、心を動かすようなエピソードを上手に話される。この“周りを動かす力”を学びたいものです。あと、猪鼻さんは行動力もすごい！弔辞のことで、タモリさんに直接聞いたんだよ。

猪鼻 講演会でお話ししようとして弔辞を読み返していたとき、分からないところがあって……同じ読み方だけど違う言葉みたいな。それを確かめたくて、タモリさんにお手紙で「どちらでしょうか？」と伺いました。そうしたら直筆のお返事をいただいて。

宇田 すごいよね、お返事きたんだよ？こういう猪鼻さんの行動力と、人との繋がり方を、みんな勉強させてもらってます。

◆ 今だから分かること

猪鼻 昔、主任児童委員っていう子ども関連の民生委員活動をやっていました。その時の経験が最近(介護に)役立ってるなあって思います。無駄なことはないんだって(笑)

宇田 只者ではないですよ、猪鼻さんは。

—一同笑い。全てが繋がっているんですね。

猪鼻 民生委員の頃の研修で、もう1つ残っていることがあって。『『あら、雨よ』って文章が書いてあるとき、あなたはこれをどう読みますか？』という問いでは。運動会当日、かけっこが苦手な子どもだったら「わーい！雨だ！」って喜びの気持ちで読むし、洗濯物干してきちゃったお母さんだったら「あら、雨よ…」って落ち込んだ気持ちで読む。つまり、文字だけじゃ相手も気持ちは分からない。メールよりも電話。表情は分からないけど、声の様子で変化が伝わる。「元気です😊」と絵文字付きのメールが来たら元気

なのかなって思っちゃうけど、ちょっと電話して声を聞いてみる。心配だったら会ってみる。そういう受け取り方の違いとか、相手の気持ちを考えることの大切さを教わった研修でした。当時は「ふーん」と思っただけだったんですけど、後々ふと思い出すことが多くて。今もブログを書く時は気をつけなきゃって思えるようになりました。



◆ 表情は「横」から見られている

猪鼻 子育てしている時に言われたことが、今の主人に当てはまるのがあって。子どもって「お母さ～ん！」で声かけてきて、横から顔を見ていたりしますよね？主人もよく私の表情を見ているんです。喋っている内容は分からないけど、「なんで笑ってるのか？」「喜んでるのかな？」「怒ってるのかな？」って、私の表情に敏感になってます。主人が横にいる時、視線を感じることもあるんです。正面にいない時ほど、意識しなきゃと。意外とガラス越し……食器棚のガラスとかに映って見えちゃうこともあるから。

— 正直、意識していませんでした。普段リハビリ中は笑顔でいるようにしていますが、準備・片付けなど直接関わらない時には……無表情だったかも。油断していました。

猪鼻 やっぱり話しかけやすいようにする工夫が大事かなって。イライラした感情をのせて言葉にしちゃった時って、オドオドして普段できることができなくなることがあるんです。で、こっちもそれ見てさらにイライラが増幅されて。最近、主人と言い合いになる時ももちろんあるんですけど、あまりヒートアップせず言い返すようにしてます。主人が「ふざけんなバカヤロー！」ってたまに言うんです。病気になる前はそんなことなかったんですけどね。言い合いになってヒートアップしちゃうと、そこから（自分の感情が）ノーマルに戻るのに時間がかかってしまう。主人も同じで。こっちも我慢しているとパンパンになっちゃうので一応言い返しますが、最近は「ふざけてません。」って低めの声で言うようにしてます。

宇田 すごいなあ……。

猪鼻 寝しなにこういうことがあると不穏になって、お互いの睡眠に影響しちゃうんです。別々の部屋で寝てはいるんですけど、ウロウロしたり片付けとか始めちゃったりして。どちらの睡眠にもいい影響はないって学習したので。完璧にできてるわけじゃないですけどね。

◆ 身体に変化が…

— 表情も言い方も、私たちにとっては普通で些細なことだと思っても大きな影響力があるんですね。

猪鼻 以前、二度ほど身体に影響が出てしまったことがあったんです。一度目は、足を引きずって歩くようになって。すごく心配だったんですけど、そんな時に誰かから「極度の緊張が身体に出ることがあるんだよ」って言われてた

んです。考えてみたら、ちょっと前に主人が緊張しちゃうような出来事があったんです。

二度目は、ご飯の時間になると「(左の頭を抑えて)ここが痛い」って息荒く痛がるようになって。虫歯かと思って歯医者に行ったんですけど違かった。デイサービスの職員さんに聞いたら「こちらの食事では何ともないですよ」って言われて……え？家の時だけ？って。そしたらケアマネさんがぼろっと「メンタルの方から身体に痛みとして現れることがあるみたいよ～」って言われました。よく考えてみたら、お昼にラーメンを作った時があって。美味しそうに食べてくれるものと思ってたら、主人はお箸で麺をこねくり始めて。麺類って出来立てをすぐ食べてほしいじゃないですか？それで感情的に言って無理やり食べるように仕向けちゃったんです。それが原因かなあ……と。「ごめんね」って主人に謝ったら、3日後に痛みはなくなりました。

— そんなことが……。

猪鼻 それをケアマネさんに報告したら、「やっぱりそう言うことあるよね～！」って。たぶんケアマネさんはわかっけてらしてサラッと行ってくれたんだと思います。だからそれからは、言い方に気をつけるようにしています。

宇田 言葉でのやり取り自体が少し難しくなってくると、そう言う風に“身体化”するんですよ。

猪鼻 言い返せる頃はこうはならなかったんですけど、言い返せなかったりグッと気持ちがこもるとなっちゃうのかなあって。想像でしかないですけどね。

宇田 これが原因でバトって（元の関係に）戻って来れない人がたくさんいるからなあ。

◆ 「変化」を繰り返して、今がある

— 認知症のご本人と向き合える家族もいれば、お互いヒートアップしちゃってどうしたら…ってなる家族もいて。猪鼻さんご夫婦のような関係に辿り着くには、やっぱり時間がかかるものなのでしょうか？

猪鼻 病気になる以前の家族関係とか夫婦関係は、すごく影響してくると思います。なので一概には言えないですけど……私も2回、3回と同じ場面に直面しながら、主人と私の間はこう言う風にした方がいいかな？って考える。それがずっと通用する訳ではないので、変化したらその時また考えます。

— 症状の進行具合で変化するってことでしょうか？

猪鼻 例えば、言葉の意味や内容が分かる頃は「お風呂入ってくるから音楽聴いててね」と一言声をかければ大丈夫だったんですけど、言葉の理解が難しくなったら、かえって声をかけることが不安になってしまっただけです。それからそ～っとお風呂に行って、そ～っに戻ってきてってやっています。そうですね、主人の変化に合わせて対応しています。対応方法は人それぞれだと思いますし、必ずこれが当てはまる！っていうのはないと思っています。私たちも変化して、今はこんな感じです(笑)

— 少し切り込んだお話をさせていただきますが、認知症の家族が変化していく……症状の進行を目の当たりにして、それをどう受け止めるのか。我々セラピストもどう見守り、

寄り添うべきなのか、日々悩んでいます。

猪鼻 認知症の進行に対する葛藤は、ずっとあります。これも難しくなってきたんだなあ……って。高齢ではない配偶者の介護となると目の前の現実に対して「仕方ない」と言う気持ちと、「寂しいな」と言う気持ちの葛藤です。はつきり言って、そういう姿を見たくないって気持ちがあるから、その姿を目の前にしてしまうと、やっぱりがっかりというか……でも、それは仕方がないことでもあって。連載の【3つの言葉】でも書きましたけど、慣れていくしかない。繰り返し、繰り返し、自分で体験して、「もう仕方ないんだね」って頭と心で思えると、スッと楽になって、それでまた次の変化があって、また葛藤があって、ずっとその繰り返しですね。

宇田 『前向きな諦め』ってやつですね。

猪鼻 はい。もう前向きに諦めていくしかないのです。こっちが頑張っちゃってると衝突もあるし、主人も苦しくなる。そういう時って、「そうなんです」って聞いてくださる人がいるだけで私は救われているんです。

宇田 前向きに諦めていくって言うと、ネガティブなイメージに感じちゃう人もいられるかもしれないけど、「今は違うな」「変化に対応していこう！」っていうすごくポジティブな動きで。「今はこうだから、ここはじゃあしょうがない諦めよう」とか「一旦置いといて」とか、とにかく今変わったことを対応していくにはどうしたらいいか、次を向いていく考え方はすごくいいと思います。

◆ お箸を変えてみた

猪鼻 最近の出来事でいうと、お箸を変えたんですよ。握力が……右手の方が左手より動きが悪いんですよ。

宇田 そこまで評価してるの！？

— 一同笑い。秀俊さんは、たしか右利きでしたよね？

猪鼻 元々は左利きなのかもしれないです。菓やコップを取るときにスッと左手が出るから。握力が弱くなるのは、オカリナをやったなければ「まあ仕方ないか」って思えるんですけど……本人はオカリナを吹きたいけど、上手くないかって分かってるんですよ。時々、気分がノラなくて吹かない時もあるんですけど、「やりたい」って気持ちが本人にある内はやらせてあげたいと思ってて。

— お箸を変えたのも、何か理由が？

猪鼻 今まで使ってたお箸はお土産でもらった塗り箸だったので、滑っちゃって上手くつかめないのかなと思って。

ふと思いついて100円ショップで溝の入った滑りにくいお箸を買いました。「新しいお箸だよ〜」って渡したら、たまたまかもしれないですけど、いつもより自分で口に運ぶ回数が多くて！もう大袈裟に「すごいね〜！もうこんなに食べちゃったの〜！？」って褒めちゃ



新しいお箸でお食事する ▶
秀俊さん。

いました(笑)すごくいい顔をしていたので、やっぱり自分で食べることは実感として嬉しいんだろうなって感じました。

— OTよりOTしてる！本当に学ぶことばかりです。

◆ 「なにもできなくて、すみません」

— 普段、認知症の方にリハビリをする中で「これは本当にこの方に必要なリハなのか？」「自分のエゴじゃないか？」と考えてしまうことがあるんです。

猪鼻 診断直後は私にもそういう事がありました。その時に流行っていたリハビリとか、「これがいい！」って聞けば主人の意向を聞かずにやらせていた時期もあったりしたんですけど……でも、本人が望んでないことをさせるってことは、常にその病気が頭の中にあるってことで。本人が進んでやるなら効果はあるけど、ないならやめた方がいいんじゃないかって言われて、反省したこともありました。……お風呂場で服を着せてる時に突然、「なにもできなくて、すみません」って言われたことがあって。何かの流れで言ったわけじゃなくて、正気になったというか、ふとクリアな状態になったみたいで。私がかがんでズボン履かせていた時に、頭の上からそう言われて……なんか、不意打ちくらって、思わず泣いちゃいました。どこまで本人にこちらの気持ちが届いていて、どう感じているのか全然分からないんですけど……目で見えればいいのに。(思考の)波があって、そういうのがスッと入ってきて、何かを感じるってことがきっとあるんだろうなって。「なにもできなくて、すみません」って言われた時は、思わずハグしてあげたくなっちゃいました。

— そんなことがあったんですね……。

猪鼻 皆さんよく言うてくださるんですけど、主人の笑顔って結構好評で。「癒される」ってよく言われるんです。「そこにおいて、ニコニコしてくるだけで皆んなほわつとした気持ちになる」と。そのことを本人に言うと、主人もにこっとしてくれるんです。こうやって、なるべく主人がいい顔をして、喜怒哀楽を表現してくれる状態でいられるといいなって思うんです。

宇田 やっぱり、どうしても我々も期待してしまう。それは仕方ないことだと思うし、あってもいいんだけど……それを押し付けてはいけないよね。バランスを取ることがポイントだと思う。期待を押し付けるだけじゃいけない。あと、「この2人だからできたんでしょ？」って思われちゃダメだと思う。「猪鼻パターンは偶然でしょ」「奇跡でしょ」って。このご夫婦をただの“いい話”で済ませたくない。ちゃんと真面目に猪鼻さんの話を聞いていれば分かるはずなんだけど、万人に理解してもらおうってのはまた難しい。せめてOTたちは理解をして、どんなケースでもできるように、うまく汎化させていくべきだと思います。

— そのためにはやっぱり、いろんな方のお話を聞いて活かしていけるOTが増えてほしいと思いますね。

宇田 医療職と患者という関係性を超えるような相手の理解ができれば、必ずご本人なりに安定する生き甲斐や楽し

めることが何かしら見つかるはず。これが大事だってことを、OTはいかに仕事で見せていくかが鍵だね。よくセラピストって『患者様に寄り添って』とか『親身になって』とか言うじゃん。……あれ、軽薄だよな(笑)

— 一同笑い。

宇田 (今日猪鼻さんが話されたような) **こういう話が本当の“親身”なんだよ**。OTにはこういうことを知ってほしい。県土会の活動で経験できることもたくさんあるから、まだ(県土会活動を)やったことないOTにはもっといろんな活動に参加してほしいね。

◆「変化」を繰り返して、今がある

— 認知症と診断されてからの生活で、楽しかった思い出はなんですか？

猪鼻 楽しかったことはいくつか思い浮かぶんですけど、「けやきの家」での子ども食堂で赤いエプロンをつけて、子どもたちのために一生懸命な主人の姿が見れたこと。それまでは台所に立ったことなかったの……初エプロン姿でした(笑)



◀ 赤いエプロンに身をつつみ、料理をふるまう秀俊さん。

— では反対に、大変さを感じたことはなんですか？

猪鼻 これまでは、よく会話をする夫婦だったので、コミュニケーションの形が変わっていくことがやっぱりすごく寂しかったり、悲しかったりします。「病気じゃなかったらなあ……」と思うこともあります。今大変なのは、言葉の意味が抜けていくので、伝えたいこと、やってもらいたいことがなかなか届かなくて。こっちの気持ちにゆとりがあれば何度でも言うんですけどね。ちょっと強く言っちゃうこともあったり。……あと、ちっちゃいことなんですけど、「**ちょっと疲れちゃったから、これお願いできるかな？**」って**言えない事に、しんどさを感じる事があります**。「疲れたからもう寝るね」って、それができない。自分の体調が悪いといい介護ができないので……体調管理をしっかりしなきゃ、という気持ちが常にあります。

— 今の生活になって、大切にしていることはありますか？

猪鼻 **ちょっとワクワクしたことを思いついたらやってみることで**すね。自分で自分の機嫌を取るというか、楽しくなるようにやってみる！あと、心がけているのが、丁寧に暮らしたいっていうもので。



トーストをカリッとさせたまま ▶ 食べたくて作った脚付きの網。100均の品2個で完成！

せっかくある“ひとり時間”を自分が満足できるように過ごす。やっぱり主人が横にいるとなかなか難しいことも多くて……。時間を大切に、楽しいことをやってみて、自分で自分に拍手して喜んで。ちょっとしたことを丁寧にやって。そういうのも大事になって思います。

◆一緒に考えてほしい

— 猪鼻さんの、認知症の方と関わるセラピストはどうあるべきだと思いますか？

猪鼻 私は“一緒に考えてくれる”のが嬉しいですね。今見てるドラマのワンシーンで「一緒に考えてほしいだけ」というセリフがあって……それにじーんときて。そういえば主人ってそういう人だったなあ、と思ったんです。上から伝えるわけでもなく、何かを反対することもなく。ドラマを見て、なんか主人ってそう言う人だったなって。専門的な知識とか、答えがほしい時もあるんですけど、「一緒に考えましょう」って言ってくださるのが、**すごくありがたいかな**。

— もし、配偶者が認知症になった方がいらっしゃったら、どのようなアドバイスをされますか？

猪鼻 必ず当てはまるというアドバイスはないと思うんですけど……**なんかなくなっていきます**。どこかでちゃんと繋がってれば、なんかかなります。最初はね、意地とかぶつかり合いとかあると思うんですけど、いろんなことを繰り返し繰り返し体験してく。あと、**ネットワークを作っておくのも大切かな**と思います。ケアマネさんもけど、生活する環境でも。私は近所の方や通ってる歯医者さん、床屋さんに主人の病気のことを伝えました。そうしたら、みなさんいろいろ気にかけて上手に関わってくださるんです。主人のことを知ってもらっていて良かったな、と思いました。……でもそれは、認知症と診断された時に主人が「なりたくてなったわけじゃないから、隠さなくていいよ」って言ってくれたからなんです。……後々分かったことなんですけど、主人は認知症という病気をよく知らなくて、風邪くらいの類の病気だと思っていて、そう言ったらしくて。講演会で美談みたいに言ったのに、知らなかったんですって(笑)でも、その主人の一言があったおかげで、みなさんに病気のことをお話することができました。そういう風に人と繋がってネットワークを作っていく。**すぐには機能しないかもしれないし、なかなか話せないという方もいらっしゃると思うんですけど、私自身の体験として<知っていただいおく>事は大事だ**と思います。

宇田 「一緒に考えてほしい」。これは今回の一番大事なキーワードだね。



私の声

—作業療法体験談—

胃ろう手術 —リハビリ体験記④— さいたま市 Fさん

〈68歳男性。2017年、61歳で多系統萎縮症を発症。症状悪化のため64歳で勤めを辞め自宅で療養に専念していたが、発症から5年を経た2022年3月、誤嚥性肺炎にかかり、治療・手術・リハビリのために3か月の入院を余儀なくされる。現在自宅での療養生活に戻る。〉

医師からの病名宣告を受けてからの徐々に生じる身体機能の変化と心の葛藤について記された「再スタート」「コミュニケーション障害」「歩行訓練」についてはこちらから



「再スタート」



「コミュニケーション障害」



「歩行訓練」

胃ろうの手術の話は、実は3年前に聞いていた。喉の分離手術をするときである。直感的に嫌悪感がした。自然の摂理という極まりない話だ。とまあ、こんな具合に親切にも元気づけようとしてくれた医師に毒づき、当惑させた。

こんな悪態ともいべき文句を並べる私がなぜ翻意して手術を受けたのかと言えば、症状の悪化が感じられて弱気になったのである。毎日飲む薬が苦痛になった。数が多くなるとともに、大きいのが増えたのである。

翻意した理由の一つは、もうひとつある。今年の3月に95歳を迎えた母がほぼ1年前に胃ろうをつけたのである。その手術に付き添った姉は帰宅後、こう証言した。

「簡単だったよ」

これがいけなかった。姉の言葉を真に受けた私は、胃ろうの手術は医者に行くほどの警戒感も、そして覚悟も、この時以来、持たなくなった。

「もちろん全身麻酔」

と姉は、きっぱりと言い切った。私が以前、肘を骨折した際、部分麻酔でひどいめにあったことを、ことあるごとに言いふらしていたからだ。

これまで私は全身麻酔で4回手術を受けた経験がある。中には10時間を超える手術もあったけれども、医師はそりゃ大変だったろう。

ところが、左肘の時にはひどい目にあった。神経麻酔とかいうヤツで、左腕一本まるごと麻酔をかけるというものだった。

最初の神経麻酔の注射をしたと思ったら、雷に打たれたような衝撃を左半身に受けた。手術台から10cm跳び上がったほどである。もう一つ苦痛を受けたことがある。突然越境するのである。つまり麻酔の効いていない領域を切ったりするわけだ。医師の手には電動のこぎり……

「ギャー」という叫び声を合図に二人の看護師が飛び掛かってベッドの私の手足を押さえる見事な連携プレーであった。そんなこと4～5時間のうちに一度でもあれば寝ているところではない。

これが10年前の部分麻酔での悲惨な思い出——時は下って2024年2月胃ろうの手術の当日に戻る。その日は朝から病室は、重い緊張感に包まれていた、と感じていたのは、私だけかもしれない。だが、埼玉県でこれほどの大病院は珍しいのに、その日は朝から病室には担当の看護師見習いみたいな女の子一人しか見かけなかった。その日のスケジュールさえ説明に来なかった。

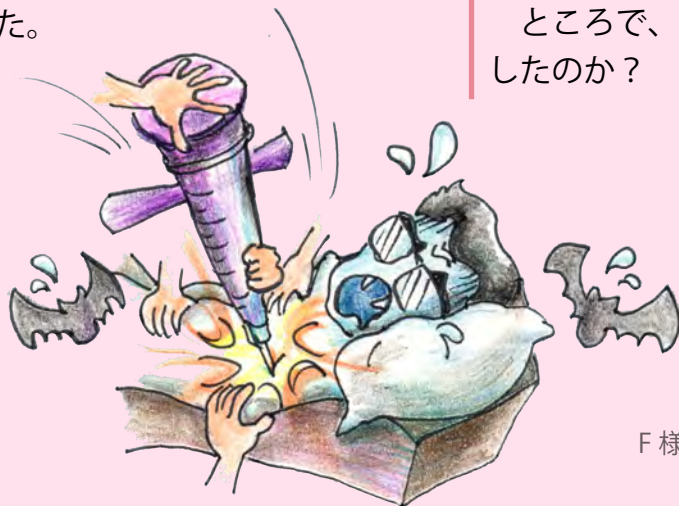
午前中に彼女が点滴を、4つ持って私の体に打ち始めた。何も説明はなかったけれど麻酔であることは一目瞭然であった。

実は後から聞いたことであるが、2年前の気管分離手術の時、私の心肺機能が著しく低下したそうで、その医師は注意するようにわけでも全身麻酔を使うリスクは高いので万一の場合を覚悟するように言われてしまったという。

そのため病院を変え、心肺機能の再検査をして同世代よりは劣るが1時間以内くらいであれば問題ないという、との結果を得た。心配は無用というわけだ。

点滴を打つと予想通り眠くなってきた。安心、安心……ところがウトウトするまではいくのだが、そこで留まり眠るまで進まない。試しに手足を動かそうとしてみると、確かに麻酔が効いているが、完全に掛かったというわけでもなさそうである。要するに、半身不随というところであろうか。この時点でまだ午前中だったので慣らしなのだろうと高をくくっていた。

日が傾きかけた3時過ぎ、突然連絡があった。「今から始めるので至急連れてこい」と。覚悟はできていたが、待ちくたびれて延期かと弱気の虫が首を持ち上げた。しかしこの先は病院側に全部お任せするほかないと考えていたが、気がかりなのは麻酔である。ストレッチャーの移動で眠くなるどころか、かえって目が覚めてきたではないか。どうやって執刀医に麻酔が効いていないことを伝えるか、両腕を挙げて万歳をすればよいかなどと考えていたらすぐに手術室に着いてしまった。



室内に入ると前の手術が終わった直後のようで、落ち着くまで多少時間がかかりそうと思った刹那、室内にいたスタッフ5~6人がワッと私に飛び掛かり、容易く手術台に組み伏せられた——手足を押さえる者、頭を押さえ鼻に吸引カテーテルを差し込む者、左胸に直径10cmほどの注射器を押しつける者。降って湧いた災難に茫然自失、ただ顔を歪めて苦しんでいるだけ……みじめな状況には既視感があった。これ以上できないほど大きく見開いた両目は血走り、絶叫を繰り返すのみ——ご存じドラキュラ伯爵の最期である。半世紀前に観たシーンが甦り、自分の現状と重なり合う。

そんなことを考えていたら、胸の痛み、鼻の痛みが突然止んだ。手術が終わったのだ。手術をしたという実感がわかかなかった。ひたすら孤独な闘い。専守防衛——ふと気が付くと病室の前に戻っていた。顔の表情はまだ強張っており、元に戻っていなかった。——大きく見開いた両目、絶叫を続ける口——ドラキュラの断末魔の表情が貼りついていて、ドラキュラは悔しかったろう。私も悔しかった。

こんなに苦しい思いをしてまでした成果は何だったのか。投薬や食生活の面では、手術当日から役立っているが、以前作業療法士からいただいたアドバイスを、今後は役立てていけそうである。「——さんはもう腹筋を使わないように」使いたいけど、もう6月というのにまだ痛い。多分もう使えない。

ところで、作業療法士はそんなアドバイスをしたのか？ その件は別の機会に。

F様の胃瘻手術の体験を描いた奥様のイラスト

東西南北ブロック特集

教えて県士会!!

— 埼玉県作業療法士会ってどんなトコ? —

今回の担当ブロック

東部ブロック

埼玉県作業療法士会では、埼玉県を東西南北の4つのエリアに分け
地域支援活動や県士会活動を行なっています!



東部ブロック在籍人数: 336名

※2024年10月1日現在



ブロック活動の紹介

- ・ブロック(ビデオ)会議: 1~2ヶ月に1回、県士会や日本作業療法士協会の最新情報の共有や研修会・座談会企画の打ち合わせ、業務に関する相談を行っています。
- ・研修・座談会『みんなで語らNight!』: 年3回、専門・専門外関係なく、知識や技術を身に付ける内容かつ交流を目的とする企画を開催しています。
- ・オープンキャンパス参加(夏キャン): 年3回、東部ブロック内の養成校(埼玉県立大学)でのオープンキャンパスに参加し、学生や教員と一緒に、高校生や保護者を対象とした作業療法の啓蒙活動をしています。

ブロック長の挨拶

東部ブロック長の小池です。東部ブロックでは、患者さんや利用者さんがより良いリハビリテーションを受け続けるための土台作りとして、県士会員の方々の日頃の悩みや素朴な疑問など、聞きにくいことやわからないことを気軽に聞くことができる関係づくりを行ないながら、楽しく活動しています。『みんなで語らNight!』にお気軽に参加していただくと雰囲気はわかると思いますので、まずはお気軽にご参加ください。ブロックメンバーも募集中です!

ブロックの特色

東部ブロックの特色は、『気軽に、楽しく』をモットーに活動しています。ブロックメンバーは、若手からベテランの様々な領域(精神、身体、小児、老年、教育など)のメンバーで構成されています。東部ブロックから始まった『みんなで語らNight!』は、日頃の悩みや素朴な疑問など、聞きにくいことやわからないことを気軽に聞き、教え合い、明日からの臨床に活かせるような内容で、会員間の顔の見える関係作りを目的に実施していますので、一緒に楽しい時間を過ごしましょう!



東部ブロック紹介動画

研修会

『今夜はみんなで語らNight!』の様子



Quality of Campus Life



～作業療法学生に聞いてみた～

Vol.4

埼玉県作業療法士会では、県内の養成校の学生さんが『広報部学生サポーター』として広報部で活動し作業療法の魅力を伝えています
そんな広報部学生サポーターさんにリアルな学生生活についてインタビューしてみました！



【今回の質問内容】

どんなアルバイトをしていますか？



埼玉県作業療法士会 広報部



お客様への対応やスタッフ間での連携などの対人コミュニケーションを学ぶため、飲食店のホールスタッフのアルバイトをしていました。4年生から総合実習で忙しくなるため辞めてしまいましたが、オープンキャンパスや外向け研修会の手伝いを通して様々な方とコミュニケーションをとる機会を確保しています。



はるちゃん



私は大学でできるアルバイトを中心にしています。例えばオープンキャンパスの学科ガイダンスを担当したり、人体標本室にて解説を行ったりなど作業療法の仕事の内容や大学で学べることを高校生や親御さんに伝える働きをしています。これらから対人コミュニケーションや専門用語を使わずに具体例を用いてわかりやすく伝えることを意識付けることができとても勉強になっています。



ゆうか



埼玉県作業療法士会広報部では、
県内の作業療法の養成校に通う学生さんの中から
学生さんのリアルを伝えてくれる『学生サポーター』を
随時募集しています！

興味のある方は各養成校の先生に相談してみてくださいね！

彩の国

2025

リハビリテーションフェスタ

“リハビリテーション”についてご存知ですか？

リハビリテーションのスペシャリスト3職種がリハビリテーションについて楽しみながら知って、学べる様々なイベントや体験を準備してお待ちしております!! お誘い合わせのうえ、是非お越しください!!

※申し込み不要! 参加無料! プレゼントも!?

理学療法士

動作のスペシャリスト! 日常生活や社会生活に必要な「起きる」「立つ」「歩く」などの基本的な動作がより良くなるよう支援し、地域住民に向けた介護予防や生活習慣病の予防などに対してもアプローチします。



作業療法士

作業のスペシャリスト! 「食事」「更衣」「書字」など日常生活での応用的な動作・作業について練習することや、やり方の工夫、環境を調整することを通して、「その人らしい」生活の獲得に向けて幅広くアプローチします。



言語聴覚士

コミュニケーション、食事(摂食・嚥下)のスペシャリスト! コミュニケーションに必要な「ことば」「聞こえ」などの能力や食事に必要な「噛む」「飲みこみ」などの能力がより良くなるよう支援し、高次脳機能や認知面などに対してもアプローチします。



体験コーナー

—理学療法士ブース—

- ・血管年齢測定とストレッチ
- ・コグニサイズ
- ・子どもの口コモチェック

—作業療法士ブース—

- ・手工芸つくる、みる
- ・子どもの感覚遊び
- ・日常生活お助けグッズ

—言語聴覚士ブース—

- ・ジェスチャーでコミュニケーション
- ・耳年齢チェック
- ・いつまでも安全に「食」楽しむ!!
- ・ことばに関する〇×クイズ

日時:2025年2月2日(日)10:00~15:30

場所:川口市民ホール(フレンジア) 川口キュポ・ラ 4階

主催:(公社)埼玉県理学療法士会(一社)・埼玉県作業療法士会
(一社)埼玉県言語聴覚士会・(一社)埼玉県リハビリテーション専門職協会

お問い合わせ先:e-mail:chiikirihaken@yahoo.co.jp(埼玉県理学療法士会事務局 高齢者福祉部)